

編集後記

「総合評価方式」について、述べているうちに第4弾となった。前回は、次世代に送る社会資本施設を公共工事により構築する際、価格評価に対し品質評価が低いのは、市民感覚と大きなズレがあると主張した。今回は、総合評価の順位付け手法だ。

公共工事の入札に際し、各参加者の価格評価点と技術評価点が出た後、如何なる総合的な評価方式で落札者を決定するか。公共工事の入札にあたっては、公正性、透明性、競争性の確保が基本命題。ここに、恣意的判定が微塵たりとも入ってはならない。ならば、その競争結果を一本の評価軸上で数値化することが最良策となる。この手法として、「加算方式」と「除算方式」が提案されており、これまで多くの自治体では後者を採用してきた。

この除算方式では、参加者全員に標準点(100点)を与え、これに各自の技術加算点を加え、各自の技術評価点とする。この点数を各自の入札額で除して各自の評価値とし、この大小で順位決定する。この考え方は、2001年よりフランスが導入したValue For Money方式から採ったもので、

単位金額で如何に大きな評価点(価値)を獲得できるかを指標としたものだ。一定の購入額で、最も高い価値のものを獲得する。至極妥当、合理的だ。こんな背景から、総合評価方式の導入を迫られた多くの自治体が「除算方式」を導入したのであろう。これも、自然な流れだ。

実際の現場では、どう機能したか。仮に、これまでの多くの事例にならい、技術加算点を30点満点とすれば、非の打ち所がない完璧な技術提案をしたA社の技術評価点は130点だ。このA社が、予定価格から5%の節減努力を示した場合、予定価格に対する比率は95%となり、その評価値は $130 \div 0.95 = 136.8$ となる。ここに、技術加算点を10点しか取れなかったB社がいる。これが予定価格の80%の額で入札した場合、その評価値は $110 \div 0.80 = 137.5$ となり、A社より上位に入る。さらに、技術加算が全くできなかったC社ですら、予定価格の72%で入札すれば、そのB社をも上回る。すなわち、総合評価方式とは言え、実質的には価格勝負の域を出られず、入札参加者は皆、相も変わらぬ“低価格入札”の泥沼に入り込んでしまった。

もちろん、技術加算のウェイトが低すぎることも、前回の指摘通りであるが、最後に、各自の入札金額で除すこと、この力が大きい。クイズ番組で営々と得点を競った後、“これが最後の質問です。正解者には50点差上げます。一発逆転も可能ですので、全員頑張ってください”ならば、ここまでの積み上げは何だったんだらう。日本のプロ野球もそうだ。営々とペナントレース144試合を戦ってリーグ優勝できたとしても、まだ逆転の危機が待っている。各リーグで3位までに入れば、日本1位も夢ではない。これをエキサイティングと言うのか。

一方、加算方式は素直だ。価格評価点と技術評価点を合計した評価値で競い合う。価格評価は各自の入札率で、技術評価は提示課題に対する提案内容で決まる。あとは、両者の配点バランスだ。今のところ、50:50が多いようだが、調達する社会資本施設の本質や機能から、技術評価が逆転しても良い時代だ。如何だろうか。

4回にわたり総合評価方式の現状に苦言を呈してきた。ここで一旦様子見としたい。

〈編集委員長 石川和秀〉



No.70 2010 Jan. 平成22年1月1日発行

編集:「No-Dig Today」編集委員会
編集企画小委員会

発行所: JSTT 一般社団法人日本非開削技術協会
〒135-0047 東京都江東区富岡2-11-18
西村ビル3F

TEL.03(5639)9970 FAX.03(5639)9975

発行人: 松井大悟

印刷所: 株式会社 LSプランニング

● ご案内 ●

◇本誌のご購読について

ご購読をご希望の方は、巻末の振込み用紙で当協会まで直接お申し込み下さい。

○購読料(税込み)

1冊 1,500円(本体1,429円)〒400円
1ヵ年(4冊)6,000円(本体5,716円)〒1,600円

◇発行

年4冊: 1・4・7・10月1日発行

◇広告のお申し込みについて

本誌に広告の掲載をご希望の方は、編集室までご連絡下さい。媒体資料等お送り致します。

◇投稿

・技術論文

非開削に関連する技術、製品についての論文を募集しています。

投稿論文は、委員会で選考の上掲載論文には薄謝をお送り致します。

◇情報のご提供について

・No-Dig NEWS ダイジェスト

非開削技術に関連する新技術、新製品、図書の紹介、関連団体の動向や講演会、セミナー・展示会の案内など、情報をお寄せ下さい。